

# 「万葉古代学研究所彙報」

平成十九年度

- 二月二五日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、大館真晴主任  
研究員（以下、研究員と略す）が「古代の伝承と歌④  
桜児・縷児の物語」を講義。
- 二月二八日 関西笑狸会（大阪）で、井上さやか主任研究員（以  
下、研究員と略す）が「万葉集からみた古代の讃岐」  
を講演。
- 三月 八日 奈良県立万葉文化館ボランティア研修で、井上さや  
か研究員が「万葉集の基礎知識」と題して講義。
- 三月 九日 奈良県立万葉文化館ボランティア研修で、井上さや  
か研究員と大館真晴研究員が館内案内の講師を務める。
- 三月一〇日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、大館真晴研究  
員が「安積山と采女の物語／古代の伝承と歌⑤」を講  
義。
- 三月一〇日 「万葉古代学研究所年報」六号を発行。
- 三月二三日 松尾光副所長兼総括研究員（以下、副所長と略す）  
の退任記念講演会を開催。松尾副所長が「書きかえら  
れる古代史」と題して講演。

三月三一日 松尾光副所長が離任。

平成二十年度

- 四月 三日 吉原啓研究員が着任。
- 四月 七日 日本史研究会古代史部会四月例会にて吉原啓研究員  
が「加賀郡勝示札についての一研究」を発表。
- 四月二二日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、井上さやか研  
究員が「巻一の世界（上）一番歌」を講義。
- 五月一〇日 奈良県主宰の第一回NARA万葉世界賞贈呈式およ  
び記念事業を万葉文化館企画展示室にて開催。受賞者  
のジュニ・ワキサカ氏（サンパウロ大学元教授）によ  
る受賞記念講演「万葉集と私」、ジュニ・ワキサカ氏、  
遠山敦子氏（財）新国立劇場運営財団理事長）、中西  
進万葉文化館長によるパネルディスカッション「万葉  
集のおもしろさ」などを実施。
- 五月一四日 春日井市立道風記念館で、井上さやか研究員が「尾  
張の万葉歌」と題して講演。
- 五月一七日 第四回委託共同研究「万葉歌と声の歌との比較研究」  
（代表・真下厚立命館大学教授）の第七回共同研究会  
を開催。
- 五月一九日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、井上さやか研

究員が「巻一の世界（上）二番歌」を講義。

五月二〇日 奈良交通・近鉄管理グループ主催の奈良学サロン（国際奈良学セミナーハウス）で、井上さやか研究員が「万葉びとの年中行事」と題して講演。

五月二二日 春日井市立道風記念館で、井上さやか研究員が「恋歌と古代の道」と題して講演。

五月二八日 春日井市立道風記念館で、大館真晴研究員が「日本神話にみる結婚」と題して講演。

六月 一日 東京代官山の奈良県イスタジオにおいて、第四回万葉古代学講座を開催。寺川眞知夫所長が「高市皇子の挽歌」と題して講演。

六月 四日 春日井市立道風記念館で、大館真晴研究員が「ヤマトケルの物語」と題して講演。

六月 八日 東京代官山の奈良県イスタジオにおいて、第五回万葉古代学講座を開催。大館真晴研究員が「三輪山に誓った思い―万葉歌にみる誓いとは―」と題して講演。

六月一三日 檀原！再発見・檀原歴史探訪講座として、井上さやか研究員が「万葉集から学ぶ、万葉びとの心」と題して講演。

六月一五日 東京代官山の奈良県イスタジオにおいて、第六回万葉古代学講座を開催。松尾光万葉古代学研究所名誉研

究員が「藤原鎌足の虚と実」と題して講演。

六月一六日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、大館真晴研究員が「巻一の世界（上）三・四番歌」を講義。

六月二七日 のべおか天下一市民交流機構（延岡市）で、井上さやか研究員が「絵馬』『小鍛冶』の世界を探る」を講演。

七月 五日 友の会主催「万葉らくらく再発見」のプログラム「万葉文化館を楽しむ」で、吉原啓研究員が館内を案内。

七月一二日 第四回委託共同研究「万葉歌と声の歌との比較研究」（代表・真下厚立命館大学教授）の第八回共同研究会を開催。

七月一三日 第二十七回万葉古代学研究所講座及び特別展「田中一村展」関連事業として、寺川眞知夫所長が「柳田国男の南島への関心」を講演。

万葉古代学研究所第三回主宰共同研究「旅と万葉集」の第一回共同研究会を開催。共同研究員は、寺川眞知夫所長・上野誠副所長・井上さやか研究員・大館真晴研究員・吉原啓研究員、伊藤信宏大阪大学准教授・神埼宣武旅の文化研究所長・高橋孝信東京大学教授・辰巳正明國學院大学教授・松尾光万葉古代学研究所名誉

研究員。研究会は、寺川眞知夫所長が共同研究の趣旨を説明したあと、今後二カ年の研究概要について討議。

七月一五日 奈良交通・近鉄管理グループ主催の奈良学サロン（国際奈良学セミナーハウス）で、大館真晴研究員が「古代人にとっての『味（うまし）』」と題して講演。

七月二〇日 第二十八回万葉古代学研究所講座として、大館真晴研究員が「海幸山幸神話になぜ歌が必要だったか」を講演。

七月二二日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、井上さやか研究員が「巻一の世界（上）五・六番歌」を講義。大館真晴研究員が、奈良県山の日・川の日川の歴史・文化講座として「万葉歌にみる飛鳥川」を講演。

七月二四日 奈良県立教育研究所主催の研修会「古典に親しませる授業づくり」で、井上さやか研究員が「『万葉集』を学ぶための体験学習に向けて」と題して講義。

七月二五日 中国鄭州大学日本文化研究センター講師の葛継勇氏が、平成二十年度万葉古代学研究所海外研修員として着任。

七月二七日 第二十九回万葉古代学研究所講座として、井上さやか研究員が「海を渡った万葉歌―ちりめん本と近代国家―」を講演。

八月二日 夏休み子ども万葉教室の講師を、吉原啓研究員が務める。

八月三日 第三十回万葉古代学研究所講座として、吉原啓研究員が「古代のお触れ書きと村の祭り」を講演。

夏休み子ども万葉教室の講師を、井上さやか研究員が務める。

八月四日 夏休み子ども万葉教室の講師を、大館真晴研究員が務める。

八月九日 第三十一回万葉古代学研究所講座として、上野誠副所長が「折口信夫、明日香への旅―その万葉古代学の始発―」を講演。

奈良女子大学と共催で、第七回万葉古代学研究所夏期セミナー／奈良女子大学二十一世紀COEプログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」（若手研究者支援プログラム）を実施。一日目は特別講義「関連分野の学び方」として、コーディネータ坂本信幸奈良女子大学大学院教授のもと、第一講・内田賢徳（京都大学大学院教授）「関連分野の教養」、第二講・大槻信（京都大学大学院准教授）「訓点資料入門」、第三講・道坂昭廣（京都大学大学院准教授）「六朝詩について」を実施。

八月一〇日 第七回万葉古代学研究所夏期セミナー／奈良女子大学二十一世紀COEプログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」(若手研究者支援プログラム)

の二日目は、「韓国木簡の現在」と題して、神野志隆  
光東京大学大学院教授の司会のもと、李成市早稲田大  
学文学学術院教授、李鎔賢大韓民国国立扶余博物館学  
芸研究生によるシンポジウムを実施。三上喜孝(山形  
大学准教授)、館野和己(奈良女子大学教授)がコメ  
ントを付した。

八月一八日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、大館真晴研究員が「巻一の世界(上)七〜九番歌」を講義。

八月三十一日 万葉古代学研究所第三回主宰共同研究「旅と万葉集」の第二回共同研究会を開催。佐伯順子同志社大学教授が「旅と遊女について」、松尾光早稲田大学非常勤講師が「『律令』・『風土記』・『靈異記』にみる旅」、ジェラルド・グローマー山梨大学教授が「瞽女の旅と音楽について」を発表。その後、参加者全員での討議を行う。

九月一日 万葉古代学研究所第三回主宰共同研究「旅と万葉集」の第三回共同研究会を開催。大木康東京大学東洋文化研究所教授が「馮夢龍『山歌』と妓女」、大館真晴研

究員が「『日本書紀』にみる天皇の移動表現―「幸」・「巡」を中心に―」を発表。その後、参加者全員での討議を行う。

九月一六日 奈良交通・近鉄管理グループ主催の奈良学サロン(国際奈良学セミナーハウス)で、大館真晴研究員が「仁徳天皇の歌物語」と題して講演。

九月一七日 笑裡会九月例会(高松市)で、井上さやか研究員が「玉藻よし讃岐の国」を講演。

九月三十一日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、大館真晴研究員が「巻一の世界(上)一〇〜一二番歌」を講義。

12th International Conference of The EASJS (イタリア・サレント大学)で、井上さやか研究員が「The Markings of Love: Orality, Textuality, and Resistance to the Confucian Way」を発表。

九月三十一日 第四回委託共同研究「万葉歌と声の歌との比較研究」(代表・真下厚立命館大学教授)の第九回共同研究会を開催。

九月二十八日 第三回委託共同研究「万葉集の成立基盤としてのヤマトの信仰的世界観の総合的研究―上山周辺地域を視座として―」の研究成果発表として、第五回「万葉古代学研究所共同研究公開シンポジウム「人はなぜ二上

- 山にのぼるのか」を奈良県社会福祉総合センターにて開催。第一講は大石泰夫盛岡大学教授が「共同研究の概要」および「総括・趣旨説明」を、第二講は城崎陽子國學院大學兼任講師が「ヤマトのダケノボリと信仰」、第三講は吉川祐子常葉学園短期大學非常勤講師が「納骨習俗とダケノボリ」、第四講は菊地義裕東洋大學教授が「二上山周辺地域の要地性」と題してそれぞれ講演し、その後、大石氏の司会で講演者および伊藤高雄國學院大學兼任講師、志水義夫東海大學准教授、渡部修武藏野大學非常勤講師を交えたシンポジウムを催す。
- 一〇月 二日 竹本晃主任研究員（以下、研究員と略す）が着任。
- 一〇月 二三日 万葉古代学研究所第三回主宰共同研究「旅と万葉集」の第四回共同研究会を開催。後藤明南山大學教授が「海を渡ったモンゴロイド」、井上さやか研究員が「『万葉集』における「旅」について研究報告」。
- 一〇月 二八日 友の会主催「万葉らくらく再発見」のプログラム「藤原京ウォーク」で、井上さやか研究員が近鉄八木駅から大官大寺跡までを解説しつつ案内。
- 萬葉学会大会において大館真晴研究員が「筑前国風土記逸文（怡土郡）にみる地名起源説話の特徴」と題して研究発表。
- 一〇月 二〇日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、井上さやか研究員が「巻一の世界（上）一三〇―一五番歌」を講義。
- 一〇月 二三日 奈良県立大學平城遷都一三〇〇年特別講義において、井上さやか研究員が「奈良の万葉歌」を講演。
- 一〇月 二六日 東アジア比較文化国際会議韓国大会（高麗大學）において、井上さやか研究員が「連合表現における百済・新羅・高麗」を発表。
- 一〇月 三〇日 大阪市立大學大学院都市文化研究センタードクター研究員プロジェクト「東アジアと日本古代都城をつなぐ道を探る―外国使節の迎撃道―」第四回研究会で、竹本晃研究員が竹内峠越えの踏査を引率。
- 一〇月 三一日 JTBカルチャーサロン（大阪梅田教室）主催の万葉講座で、井上さやか研究員が「万葉の舞台、飛鳥へ」を講演。
- 一一月 四日 奈良芸術短期大學の明日香講座（教養科目）で、井上さやか研究員が「明日香（飛鳥）と万葉」を講演。
- 大阪市立大學大学院都市文化研究センタードクター研究員プロジェクト「東アジアと日本古代都城をつなぐ道を探る―外国使節の迎撃道―」第五回研究会で、竹本晃研究員が大坂（穴虫）越えの踏査を引率。

一月 六日 JTBカルチャーサロン（東京新宿教室）主催の万葉講座で、井上さやか研究員が「万葉の舞台、飛鳥へ」を講演。

一月 二日 奈良芸術短期大学の明日香学講座（教養科目）で、井上さやか研究員が「明日香（飛鳥）と万葉2」を講演。

一月 四日 JTBカルチャーサロン主催の「万葉の舞台、飛鳥へ」（現地踏査）で、井上さやか研究員が館内及び明日香村内踏査の引率講師を務める。

一月 七日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、寺川真知夫所長が「巻一の世界（上）一六番歌」を講義。

一月 八日 奈良交通・近鉄管理グループ主催の奈良学サロン（国際奈良学セミナーハウス）で、大館真晴研究員が「記紀の物語にみる桜」と題して講演。

一月 九日 第四回委託共同研究「万葉歌と声の歌との比較研究」（代表・真下厚立命館大学教授）の第十回共同研究会を開催。

二月 七日 第六十七回友の会講座で、葛継勇海外研修員が「飛鳥寺の造営と東アジアの『仏教外交』」、竹本晃研究員が「遣隋使と冠位十二階」と題して講演。

二月 二五日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、大館真晴研究

員が「巻一の世界（上）一七〜一九番歌」を講義。

二月 八日 和泉市教育委員会文化財振興課の資料調査で、竹本晃研究員が大般若経調査を指導。

二月 九日 第七回奈良県立万葉文化館ボランティア研修会で、井上さやか研究員が「万葉のたのしみ」、竹本晃研究員が「歌木簡こぼれ話」と題して講義。

二月 二日 第五回委託共同研究の採用について、審議会を開催。  
二月 二日 万葉古代学研究所第三回主宰共同研究「旅と万葉集」の第五回共同研究会を開催。竹本晃研究員が「正倉院文書と木簡からみた移動」と題して研究報告。

二月 四日 葛継勇海外研修員・竹本晃研究員が、奈良県庁における研修成果発表会に出席。葛研修員が成果を発表。

二月 八日 大阪市立大学大学院都市文化研究センタードクター研究員プロジェクト「東アジアと日本古代都城をつなぐ道を探る―外国使節の迎接地―」第六回研究会で、竹本晃研究員が洪川道（難波から河内まで）の踏査を引率。

二月 九日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、井上さやか研究員が「巻一の世界（上）二〇・二二番歌」を講義。

二月 二〇日 奈良交通・近鉄管理グループ主催の奈良学サロン（国際奈良学セミナーハウス）で、大館真晴研究員が

「古代の人々は星をどう理解したか」と題して講演。

一月二四日 第四回委託共同研究「万葉歌と声の歌との比較研究」

(代表・真下厚立命館大学教授)の第十一回共同研究会を開催。

一月二八日 葛継勇海外研修員が離任し、中国に帰国。

◆専任研究員のおもな業績（平成二十年二月～平成二十一年一月）

松尾 光（平成二十年三月三十一日退任）

〔研究論文〕

○「和泉監・吉野監の名称について」（『万葉古代学研究所年報』六号）平成二十年三月

○「万葉挽歌詠の作者と場」（『万葉古代学研究所年報』六号）平成二十年三月

〔その他〕

○「万葉万華鏡①／三輪山をしかもかくすか」（『naranto』二十号）平成二十年三月

○「万葉歌の魅力さをさぐる⑫／朝、川を渡る」（『天飛ぶ』二十号）平成二十年三月

○「鎌足像はどのように作られたか」（『やまとみち』九八号）平成二十年三月

井上 さやか

〔研究論文〕

○「『日晩』という表語―漢字文化圏における万葉歌の位置を探るために―」（『万葉古代学研究所年報』六号）平成二十年三月

○「死者への歌・死者からの歌―『万葉集』『文選』の挽歌の作中

主体―」（『万葉古代学研究所年報』六号）平成二十年三月

○「連合表現における百済・新羅・高麗」（『東アジアの人文伝統と文化力学』）平成二十年十月

〔研究発表〕

○「The Markings of Love: Orality, Textuality, and Resistance to the Confucian Way」(European Association of Japanese Studies) 平成二十年九月

○「連合表現における百済・新羅・高麗」（東アジア比較文化国際会議韓国大会）平成二十年十月

〔その他〕

○「万葉万華鏡②／たまきはる宇智」（『naranto』二十一号）平成二十年六月

○「万葉歌の魅力さをさぐる⑬／伝説の美女との邂逅」（『天飛ぶ』二十一号）平成二十年七月

○「The Markings of Love: Orality, Textuality, and Resistance to the Confucian Way」(12TH INTERNATIONAL CONFERENCE OF THE EASJS) 平成二十年九月

○「万葉万華鏡④／わが背子と二人見ませば」（『naranto』二十三号）平成二十年十二月



大館 真晴

〔研究論文〕

○「允恭天皇紀にみる訓注の一機能―鬪鷄国造の人物造形と関わらせて」〔万葉古代学研究所年報〕六号）平成二十年三月

○「うまし」〔修辞論〕近藤信義編・おうふう）平成二十年十二月  
〔研究発表〕

○「筑前国風土記逸文（怡土郡）にみる地名起源説話の特徴」（萬葉学会大会）平成二十年十月

〔その他〕

○「万葉万華鏡③／花のみに咲きて」〔narantol〕二十二号）平成二十年九月

○「『先代旧事本紀』を読み解く 巻第六「皇孫本紀」」〔歴史読本 特集ワイド『先代旧事本紀』を読み解く』五三―五十二・新人物往来社）平成二十年十二月

吉原 啓（平成二十年九月三十日退任）

〔研究発表〕

○「加賀郡勝示札についての一研究」（日本史研究会古代史部会四月例会）平成二十年四月

〔その他〕

○「木簡のイロハ」〔万葉図書・情報室だより〕二十二号）平成二十年七月

○「万葉歌の魅力を探る⑭／仮廬を壊す」〔天飛ぶ〕二十二号）平成二十年十月

竹本 晃（平成二十年十月一日着任）

〔研究論文〕

○「古写経研究の可能性―道行知識経について―」（九州史学）第百五十一号、平成二十年十月。